

## 復命書

2010年 1 月 20日

新政会 代表  
望月 厚司

議員名 望月 厚司・田中 敬五・兼高 正男・中山 道晴・水野 敏夫  
遠藤 広樹・佐藤 成子・尾崎 剛司・池邨 善満・後藤 哲朗

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2010年1月18日(月)	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	防衛省 静岡市東京事務所
	(2) 対 応 者	防衛副大臣 榛葉賀津也 静岡市東京事務所 鶴田博靖所長他
3 目 的	昨夏の政権交代以降、よく国と地方の役割が論じられるようになったが、その国の役割の要とも言うべき、防衛について、その状況と今後の展望などを伺い庁内を視察する。また、シティーセールスの先頭に行くべき東京事務所の実情を伺う。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p><b>『防衛省・榛葉賀津也副大臣の講話』</b></p> <p>国会開会日にあたり、超多忙な副大臣に、昼食時間を含めて時間を頂き面談させていただいた。副大臣室には、現在自衛隊がPKOなどで派遣されている地域や、危険?と思われる地域の現地時間の時計や、世界地図が掲げられていて、なんとなく緊張感が伝わってくる。今もアメリカ軍の普天間基地の移転が問題になっている中、平成22年1月に出された、ぎりぎりの情報公開の文書をもとに『在沖海兵隊を含む在日米軍の意義・役割』について、いろいろと話していただいた。①わが国周辺の安全保障環境②在日米軍の意義・役割③在沖米海兵隊の意義・役割④普天間飛行場の役割の説明。何処にどれだけの米軍基地が配置されているのか。その組織はどうなっているのか等。また、GDPの1割の中身の説明(我が国は、海上輸送に全貿易量の99%以上を依存)中国の核・ミサイル戦力や海・空軍力の近代化のことや、</p>	

朝鮮半島のミサイル・核問題。竹島問題、海洋調査船のこと、北方領土問題など。他にも、国際問題を多々抱えていることがよくわかる。個人的には、軍備と聞いただけで、身震いする。でも説明を聞けば、もし、責められた時、どうするの？には答えられない。朝鮮半島からは簡単にテポドンが飛んでくる時代だと。世界各国が、国防費を増加させ、装備の近代化を図っている。各国の状況把握が一番大事なこと。アメリカは、有事の際に、日米安保条約に基づき、アメリカ軍を即応展開。自衛隊が保有しない能力・アセットをもって抑止力を構成・提供する。ということだ。又、我が国及び極東の平和と安全維持を目的として、米軍に施設・区域を提供するとも謳われているし、アジア太平洋地域の平和と安定の維持にとって不可欠な存在と。沖縄駐留(普天間含む)の理由もきちんと認識されている。国内の陸軍 3 ヲ所、海軍 6 ヲ所、海兵隊 3 ヲ所、空軍 3 ヲ所。太平洋軍司令官の総指揮で動いている。在日米軍総人数は、35965 人(2009 年 9 月現在)だそうだ。

#### 『防衛省内訪問』

昭和 45 年 11 月の三島由紀夫事件の現場となった市ヶ谷の陸上自衛隊。三島は、「楯の会」のメンバー森田必勝ら 5 人を引き連れて東部方面総監部に侵入。総監を監禁し、陸佐など 8 人に三島の刀で重傷を負わせた。その後、バルコニーに出て、自衛隊員を前に演説。再び部屋に帰り、自身の刀で割腹自決した。その際の、刀傷や、バルコニーなどが歴史の証人として見学コースになっている。また、極東国際軍事(東京)裁判の際の法廷となったのが、この旧陸軍士官学校の講堂。その際の資料とともに保存されている。かなりの見学者が訪れていた。

#### 『静岡市東京事務所』

時間的には 1 時間ほどしか取れなかったが、本音の話がうかがえた。開設時期や、開設理由、事務分掌など、概要を伺った。今後観光課の職員が兼務になることや、シティーセールスに力を入れていくことなどが聞けた。本庁の組織替えの影響も大だ。首都圏懇話会などでの情報交換をしている。雑誌の取材を受けたり、取材をお願いしたりして PR をしている。ガンダムやおでんの話に。いかにシティーセールスに繋げていけるかと課題確認。

私たちが安心して生活できているのは、守られているからだ。とは、わかってはいるものの、軍備予算や、沖縄の基地問題などは考えさせられるものだった。平和を願わない人はいない。戦災を受けている静岡市としても、もう少し平和の認識が日常的に確認できるような場を、もっと広い所に、開設していかなければならないのではないかと感じた。平和資料館の在り方の再考にしたい。国政は、外交と防衛で、あとは、地方にすべて移管してもいいのではないかななどの声がある中で、実際の生活での、安心安全の確保は、やはり国の政策がきちんとしていなければできない事だ。清水港に観光で、客船誘致などをやっているが、イージス艦なども立ち寄る計画がある？ということも聞いたし、国民保護法など、一旦緊急事態が生じた場合、地方公共団体はどのような対応が求められるのかなど、国民の安心安全を守る最先端・防衛省の話が伺えたのは有意義であった。水道をひねれば水が出て、スイッチを入れれば電気がつく、この当たり前の平和な生活を市民が、もっと再認識する必要があると思った。自然災害ばかりではない緊急対策意識の醸成が必要だ。また東京事務所には、もっと権限と財源を与えていく方向を考えるべきだと思う。シティーセールスの在り方、トップセールスの在り方をもう少し力を入れていかなければと実感した。売り方が地味なのではないか。もう少し、派手に・声高にやってはどうかと確信した。観光がキーワードならば尚更だ。夜に、国土交通省政務官と総務省副大臣との意見交換もできたが、これからますます地方議員の力が問われていくと実感した。これからも、地方の声を政府へ届けていかなければならない。

文責 佐藤成子